

令和7年度 大阪府立東大阪支援学校 第1回学校運営協議会 議事録

学校名	大阪府立東大阪支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	令和 7年 7月 16日(水) 10:00~12:00
開催場所	1階 会議室
出席者(委員)	家門 鉄治(会長)、大畑 素郎(副会長)、渡久地 綾子(委員) 加藤 奈津子(委員)、中西 良介(委員)、八本 美菜(委員)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 藤川 知己(事務長) 小島 雅武(教頭) 中村 素子(教頭) 坂下 嘉彦(首席) 上別縄 拓(首席) 大石 尚志(首席) 豊田 直人(首席) 三ノ浦 隆史(小学部主事) 毛利 琴美(中学部主事) 能口 登志子(高等部普通課程 部主事) 久保 茉由子(高等部生活課程 部主事)
傍聴者	保護者1名
協議資料	下記の議題に関する資料及び意見書
備考	

議題等(次第順)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「学校運営協議会」及び「事務局」自己紹介
- (3) 「学校運営協議会会長」の選出
- (4) 「学校運営協議会 実施要項」「学校運営協議会 傍聴に関する要領」の確認
- (5) 本年度の予定
- (6) 本年度「学校経営計画」について
- (7) 意見交換
- (8) 教頭挨拶

議題内容・承認事項等(校長より内容説明)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「学校運営協議会」及び「事務局」自己紹介
- (3) 「学校運営協議会会長」の選出
 - ・会長に大阪芸術大学 家門様、副会長に はばたき園 園長 大畑 素郎様に参加者全員一致で信任。
- (4) 「学校運営協議会 実施要項」「学校運営協議会 傍聴に関する要領」の確認 ・事務局より説明。参加者全員で確認する。
- (5) 本年度の予定
 - ・第1回 7月16日、第2回 12月10日、第3回 2月18日、年間3回開催予定。(6) 本年度「学校

経営計画」について

- ・令和7年度 学校経営推進事業の取り組みについて 概要説明と本校の取り組み
 - ・「今年度の取組内容」については、4つの柱「①安全安心力の向上」「②授業実践力の向上」「③組織力の向上」「④発信力の向上」、中期的目標の令和6～8年度の重点取組、今年度の重点目標を説明。
- (7) 意見交換・下欄に掲載 (8) 教頭挨拶

委員からの意見の概要

・学校経営推進事業の支援校に選出され、取り組まれる内容を聞き、大変期待している。素晴らしい取組となるように、3年間頑張ってもらいたい。

・「他校からの学び企画」で、教職員全員が他校へ学校見学に行くとのこと、約100名の出張旅費は、どのような予算を活用するのか教えていただきたい。

→今年度の学校経営計画のポイントとなる取組であることから「校長マネジメント経費」の旅費として予算を計上している。

・東大阪支援学校は、新しいことに挑戦し続けている姿勢がすごいと感銘している。日々の業務で疲弊し、新しいことに挑戦したいと思いつながらできない組織が多い中で、いつもすごいなと感じている。先日行った研修の中で「イノベーションマインド(新しいことに挑戦する気持ち)」に必要なことは何か」という話で二つあると学んだ。一つめは「仕事の中でワクワクすること」、二つめは「不安がないということ」。自分も職員にそのような気持ちになってほしいと思っている。東大阪支援学校は、学校運営協議会に参加するたびに新しい取組ができていますが、この新しいことに挑戦する職場のメカニズムを知りたい。

→昨年度、教職員全員で「どんな学校を作っていきたいか、夢を語り合おう」というイノベーションミーティングを行った。全員が付箋に思いを書いて語り合い、可視化した。その内容のいくつかを実現するためには「予算」が必要で、大阪府の「学校経営推進事業」の選考にトライした。先生方の思いを形にするためのジョイント役として部主事・首席が自ら考えて動き、教職員も試行・協力しながら「子どもにとって」という視点で進んでいる。

・「東大阪はなさくプロジェクト」の内容は、「デジリハ」や「がっこうヨガ」等、最新の取組も含まれており、かなり専門的なスキルが必要だと思うが、何か工夫はあるか。

→コアメンバーを募集して、「みんなで学んでいながら実践すること」に加えて、各分野の専門家と連携して指導助言をいただくシステム。教員研修や出前授業を行い、また、大学・企業からの伴走支援も活用する予定。

・「東大阪はなさくプロジェクト」の内容は、自立活動と関連しているので、ぜひ、自立活動の6区分のどのねらいで取り組むのか、位置付けながら進んでほしい。スヌーズレン・デジリハ等、子どもによってねらいが違ってしまうので、身体の動き・コミュニケーション能力・認知面向上等、意識しながら、子どものモチベーションアップにもつなげてほしい。

・聞いていてワクワクする取組である。「組織力の向上」として教職員の異動があっても組織力が維持できる視点は、地域小中学校も同様である。地域小中学校でも人材育成の観点で異動期間が4年～7年程度となっている。人材育成は喫緊の課題で、自校でも教員一人ひとりが「自分の実践が学校のめざす子ども像にどうつながっているのか」意識できることが大切だと感じている。東大阪支援学校のイノベーションミーティングを参考に自校でも今年度から取り組んでいる。ぜひ、ミドルリーダー間の連携をお願いしたい。

・「ポジティブ行動支援」の研修を教員が受けているのか。

→外部研修で受講する機会が増えており、生活課程で共有することはある。

・地域で活動する中で、訪問介護や愛着障がいの方と関わる機会もあり、「生きる教育」を学んでいきたいと考えている。地域に還元できる情報として、「生きる教育」から学んだことを提供していきたいと思う。

・21年間「学校」を外部の立場で見てきたが、今回の「東大阪はなさくプロジェクト」の企画を聞き、「このような取組を行ってほしいな。このような環境を導入してほしいな」と思っていた形が実現しており、大変うれしい。子どもたちにとって、良い形になっていると思い、期待している。組織としての取り組みを進めて、地域や全国に発信してほしい。

・保護者の立場で、新しいプロジェクトが始まって、先生方も一生懸命取り組んでいて、自慢のできるいい学校だと思っている。ぜひ、東大阪支援学校が地域を率先していく形で、地域の支援が必要な子どもたちも活用できるようにしてほしい。地域へ貢献できたら、東大阪支援学校がもう一步グレードアップできるとしており、楽しみにしている。一方で保護者として気にしているところは、2学期の大きな行事がなくなって、プロジェクトは将来的にもすごく良いことではあるが、子どもたちにとっては毎年毎年が「限られた1年」でもあるので、フォローをどうしようかと悩んでいる部分もある。

→行事の移行期に伴う補足説明を行い、「子どもにとって」を軸に、より充実した新しい取組へアップデートできるよう検討を重ねていく。

次回の会議日程

日	時	令和 7年 12月 10日（水）
会	場	大阪府立東大阪支援学校 1階会議室